

サハリンにおけるトド繁殖場調査

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 服部, 薫 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009814

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



サハリンにおけるトド繁殖場調査

サハリン周辺のトドの分布及び繁殖状況を把握し、北海道沿岸域との往来について調べるために、2009年からロシアとの共同調査を開始しました。

(生態系研究室 服部 薫)



冬になると北海道周辺にトドが来遊します。以前は根室海峡や噴火湾などでも大きな群れが目撃されていましたが、近年は日本海側での目撃が多くなっています。トドによる漁業被害も特に日本海沿岸で大きな問題となっていますが、なぜトドが日本海側に集中するようになったのかはよくわかっていません。トドはオホーツク海を取り囲むロシアの島々で生まれます。かつて、その分布の中心は千島列島でしたが、1980年代までに個体数が激減しました。一方でサハリン周辺に位置するチュレニー島やイオニー島では、1990年代以降、個体数が増えています。このことと、北海道日本海側にトドが集中していることには何か関係があるのでしょうか？

当研究所では、サハリン周辺のトドの分布及び繁殖状況を把握し、北海道との往来について調べるために、2009年からロシアとの共同調査を開始しました。

サハリン南部には繁殖場が1カ所、上陸場が3カ所あります(図1)。トドが繁殖する6～7月に、これらの島々を訪れて調査しました。チュレニー島はトドとオットセイとウミガラス(オロロン島)が棲む無人島です(表紙写真)。ここでは繁殖期を通じた個体数の変化と出生数を調べるとともに、過去にロシア側によって付けられた個体の標識を読み取りました。標識



(▲:繁殖場 △:上陸場)

図1 サハリンのトド上陸場

からは、その個体の生まれた年・場所などがわかります。その結果、最大で2,043頭(新生子678頭を含む)が分布し、新生子の数が年々増加していること、オホーツク海北部のイオニー島や千島列島で生まれた個体も多く混在することを確認しました。また、この繁殖場では初めてとなる新生子への標識付けを行い(図2)、これまで確認できなかったチュレニー島生まれの個体の来遊状況が明らかになることが期待されます。

上陸場3カ所では、合わせて2,007頭(新生子11頭を含む)を数えました。これらの



図2 チュレニー島で体側に標識された新生子

出生した島を示すロシア文字“Г (ゲー)”と数字の2
(※標識が付いたトドを見かけた方は情報をお寄せください。)

地域は北海道日本海沿岸に近接しており、特にモネロン島では、これまで行われていないと考えられてきた繁殖が2008年に引き続き確認され、今後の動向から目が離せません。さらに、宗谷海峡に位置するオパスノスチー岩礁とチュレニー島では若齢獣1頭と成獣2頭を生け捕りして頭部に発信機を装着し、その行動を衛星で追跡することができました。オパスノスチー岩礁で捕獲された若齢個体は、7月末まで宗谷海峡を往来し北海道の沖合にもいたことが明らかとなりました(図3)。今後、冬にもサハリン南部で調査を行い、越冬期のトドの分布状況を調べるとともに、より多くのトドに衛星標識を取り付けることを計画しています。

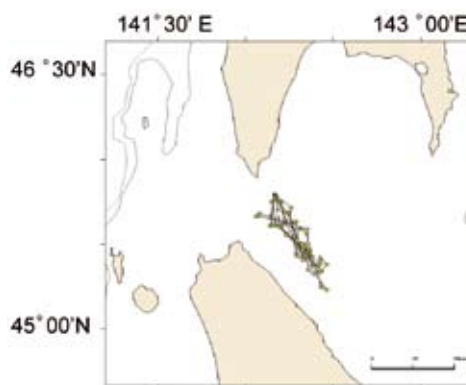


図3 発信機を取り付けたトド若齢個体の移動経路

捕獲した7月3日から29日まで宗谷海峡と北海道沿岸に留まった。

この調査で、北海道沿岸域との交流の実態と回遊行動を把握することにより漁業被害の発生要因を解明し、防止技術の開発に活用されることを期待しています。